

ロットの手入力、大変だなあ...

そうだ!!
バーコードを
使おう!!

加工食品メーカー
A社

加工食品メーカー
B社

独自仕様にしたA社

GS1標準にしたB社

自社独自の
ルールで設定

えーって...?

ロットのバーコード表示か...
JANコードの後ろに
そのまま自社のロット番号を
入れれば良いかな?

うちのロット番号は
英数字6桁だから
7桁目から日付も入れて...

せっかくグローバル標準の
GTIN (JANコード)
を使っているんだし
ロット番号や日付情報も
GS1標準で表現しておこう

サプライ
チェーン全体で
活用可能!

仕様が決まっているから
いちいち考える必要なし!
ラクチン!

(01)04512345000011
(11)251025
(15)260425
(10)ABC123

取引先：卸C社

結局
手入力

バーコード
貼り替えに
OCR対応...

ロット番号もバーコード表示
されているらしいけど
A社独自のルールだから
うちのスキナーで読み取れない...

おおっ
助かる!!

B社はロット番号も
日付情報も標準バーコードを
付けてくれるから
うちでも読み取って使える!

結局
一生懸命
コード体系も
考えたのに...

とほほ...

バーコード
変えてください

スムーズに
販路拡大
成功!!

他の属性情報の追加も簡単だし
GS1標準を使って良かった!

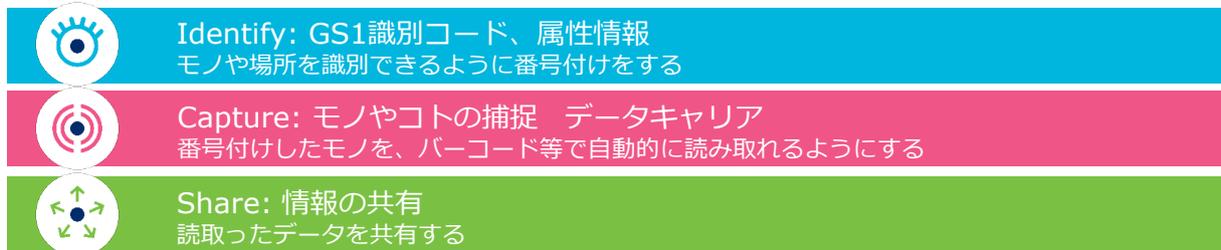
標準バーコードのおかげで
色んな取引先から感謝された!

GS1標準とは？

世界150か国以上で使われているグローバル標準「GS1」は、製造から販売まで、サプライチェーンのあらゆる場面で役立つ共通ルールです。

各企業が独自仕様のコードやバーコードの仕組みを導入すると、個別企業ごとに利用するためにコードの変換が必要となってしまいます。そのため、コードやバーコードを世界中で使えるよう標準化を進めています。GS1標準の仕様はオープンで、ベンダーに依存しません。

流通コードの管理及び流通標準に関する国際機関であるGS1には、110を超える国と地域が加盟しています。GS1 Japan（一般財団法人流通システム開発センター）は、日本の代表機関としてGS1に加盟しています。



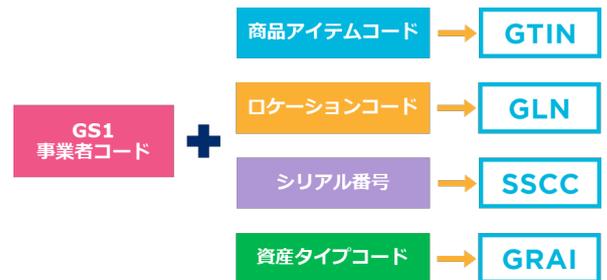
これら一連の流れを対象に、GS1標準の仕様が作られています。

GS1識別コード

GS1識別コードは、GS1が定めている、商品や企業などを識別するためのグローバル標準の識別コードです。

GS1事業者コードをベースに、商品アイテムコードやロケーションコードなどを、識別する対象ごと組み合わせで作成します。

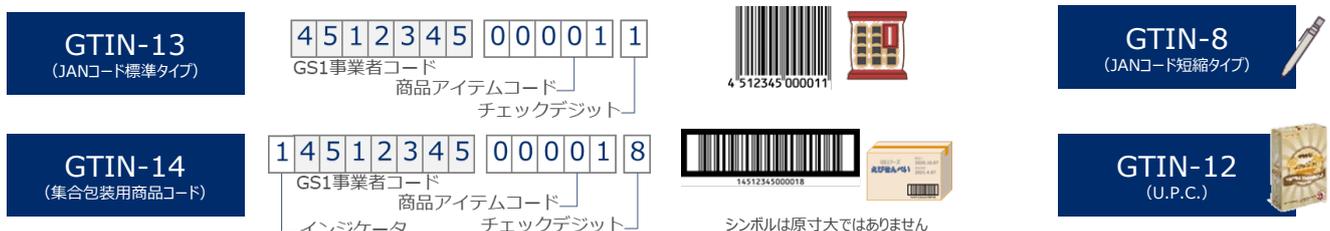
日本の事業者には、GS1 Japanが日本に割り当てられた番号帯からGS1事業者コードを貸与しています。GS1事業者コードを重複しないよう管理しているため、それをもとに作成されるGS1識別コードもグローバルで重複しないようになっています。



GTIN (商品識別コード)

GTIN (Global Trade Item Number) は、「どの事業者の、どの商品か」を表す国際標準の商品識別コードです。主に商品（単品）を識別する13桁のGTINは、日本国内ではJANコードとも呼ばれています。GTINは、原則、その商品のブランドオーナー（その商品の仕様について、責任を持っている事業者）が設定します。13桁のGTINの他にも、集合包装や不定買商品※の物流単位で活用される14桁のGTINなど4種類あります。

※包装や荷姿ごとに重さや長さなどがバラバラで、都度異なる商品のこと



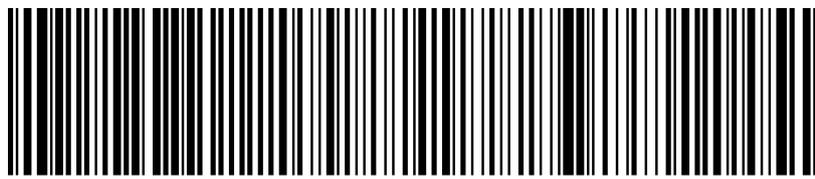
世界中で重複なく使える

サプライチェーン全体で使える

GS1アプリケーション識別子 (AI)

GTINなどのGS1識別コードは、日付情報やロット番号などの属性情報と組み合わせて表示することも可能です。

GS1アプリケーション識別子 (AI : Application Identifier) は、GTIN・日付情報・ロット番号などのデータの先頭に付けて使用する、2桁から4桁の数字のコードです。AIに続くデータの内容とフォーマット (長さで使用可能な文字) が標準化されているため、サプライチェーン全体で同様にデータを理解し、扱うことができます。



(01)14512345000018(11)240304(15)240504(10)ABC123
GTIN 製造年月日 賞味期限日 ロット番号

共通のルールで表現できる

標準仕様のため、サプライチェーン全体で同じルールに沿ってGS1識別コードや属性情報が表現できます。企業間・システム間でのスムーズなやりとりが可能です。

拡張性がある

複数のデータ項目を自由に組み合わせて表示することができるため、独自フォーマットに比べて、属性情報の追加や変更、削除が簡単です。*

*利用できるAIの一覧は[AI一覧表](#)を、利用可能なAIの組み合わせは[GS1総合仕様書](#)をご確認ください。

GS1標準のデータキャリア

GTIN・日付情報・ロット番号などのデータを、一次元シンボル、二次元シンボル、RFIDタグなどのデータキャリアに書き込んで、業務効率化に活用することができます。

データキャリアの特徴

- ✓ 一次元シンボル：もっとも古くから活用されている。GS1-128シンボルなどを活用すると、AIも表現できる。
- ✓ 二次元シンボル：一次元シンボルよりも大きなデータ量を格納でき、コンパクトに表示可能。汚れにも強い。
- ✓ RFID：非接触で短時間に大量読み取りが可能。バーコードに比べて導入コストがかかる。

使用できるデータキャリアの種類は、識別対象や利用業界、使用環境によって異なります。導入にあたっては、業種や目的に応じて最適な組み合わせを選定することが重要です。詳細はGS1 Japanまでご相談ください。

様々な情報を表現できるGS1標準データキャリア

GS1-128シンボル



(01)14512345000018(11)240304(15)240504(10)ABC123

GS1データマトリックス



(01)04512345000028

GS1 QRコード



(01)04512345000011
(11)251025
(15)260425
(10)ABC123

データマトリックス (GS1 Digital Link URI方式)



(01)04512345000011

QRコード (GS1 Digital Link URI方式)



(01)04512345000011

EPC/RFID



シンボルは原寸大ではありません
JANシンボルやITFシンボルは、GTINのみを表現します。したがって、ロット番号などを表示する際は、使用することができません。

機械で自動的に読み取り

AIを用いて属性情報も表現